

歴史は語る

太古のロマンを夢みて



埋蔵文化センター (南国市 藤原1437-1 東工業高校の西方 ☎864-0671)

埋蔵文化センターを訪ねて

広報委員会は、藤原にある高知県埋蔵文化センターを訪ねました。このセンターでは、県内各地で発掘された埋蔵品の調査や復元・管理などの業務が行われています。最近では、土佐市の居徳遺跡群から縄文時代としては非常に珍しい漆塗りの木製品が出土したり、弥生時代以前の地層

から鉄が見つかつたりと、考古学的にも大変興味深い発掘がなされたというお話を伺いました。

実際に遺跡から発掘された土器を目にしましたが、原型をとどめているのはごく稀で、復元作業はどのジグソーパズルよりもずっと難しそうに見受けられました。

できる作業ではないことを知り、その感動は言葉にはできなかつたそうです。

埋蔵文化センターでは、ことしの5月から市内の小・中学校に出向き「出前考古学教室」を開いています。調査員さんは、時代を担う子どもたちが実際に古代のものにふれることにより、考古学に対する興味を持って、埋蔵文化財の大切さを知ってもらいたいと語っていました。



出前考古学教室 (久礼田小学校)

今、紀貫之邸の発掘調査が行われています。「何が出てくるのか、楽しみ！」と、調査員の方々の目が輝いていました。



紀貫之邸跡

大昔の生活を直接伝えてくれる出土品です。これらを見たい時、知りたい時にいつでも自由に利用できる展示施設があればいいなという思いを抱いて、センターを後にしました。

田村遺跡発掘現場レポート

高知空港整備拡張の工事に伴い南国市にある田村遺跡では、2年度目(平成8年・11年)の発掘調査が行われています。前回(昭和55年・59年)の発掘では、水田から弥生人の足跡が見つかり、その田をこっそりと切り取り、現在、岡豊山にある歴史民俗資料館に展示しています。

数十センチ下には、弥生の人たちのムラが確かに今でもあつたのです。田村で見つかった竈穴住居は40戸あまりになり、弥生時代の高知では最大のムラでした。

このような大発見も、わずかな土の色の違いを見抜き、手作業で進められています。作業員さんにベテランが多いというのも、もつともだと思えました。



私たちは、日常的に飛行機に乗り、外国へ、月へ、宇宙へと、その行動範囲を日ごとに広げる一方、その足元には、大昔の文化や暮らしがそのままそつと息を潜めているのです。今の私たちの暮らしがあるのは、昨日があり、父母、祖父母の時代があり、そのまたずつと昔があり、一日として途切れることのない連続とした毎日があったのだとあらためて思い直しました。

発掘調査の流れ

発掘調査

住居跡や土坑などを検出し、土器などを竹べらで細かく掘ります。



遺構の測量

掘り終わった遺構は測量し、図面に記録します。これを基に報告書が作成されます。



見学会

発掘調査の間には、見学会も開催され、住居跡や土器の出土状態を見ることができます。



土器の復元

掘り出した土器などは水洗いと注記をした後、破片を接合し、足りない部分を石膏などで復元します。



土器などの実測

復元できた土器などは、実測して図面を作成します。図面には土器の模様や作り方なども記録します。



現地説明会での展示

復元や実測の終了した遺物は現地説明会や展示会で見ていただけます。また速報展・企画展なども行い、成果を公開します。



永永と生き続ける

奈良時代の条理

南国市の誇る美田がある田村地区。驚いたことにその条理(区画)は、なんと奈良時代に区切られたものとお聞きしました。

私たちの祖先の永い歴史、そしてその暮らしと知恵を知ることのできる遺跡。滑走路の下で再び永い眠りにつく前にもう一度、ご家族で見学に行ってみませんか。

南国市の主な遺跡

